

高浜原発クレーン倒壊

適切な強風対策せず

関西電力高浜原発（福井県高浜町）で20日夜、大型

クレーンが倒壊して建屋2棟の一部が損壊した事故で、クレーンメーカーのマニユアルに従った対策を取っていなかったことが26日わかった。

クレーンは当時、アームを高さ約105メートルまで伸ばし、風上にあたる北西方向に前部を向けていた。転倒防止のため、地面の重り（5ト）とアームの先端をワイヤでつないで固定していたが、南東方向にあった2号機の原子炉補助建屋と核燃料を保管する燃料取り

扱建屋の屋根の上にアームが倒れた。

マニユアルには、風速が30メートルを超えると予想される場合はアームを地上に下ろし、10メートル超ではバランスを取るため、重心があるクレーンの後部を風上に向けることが記載されているという。

福井地方気象台は事故当日、「20日夜遅くから急速に北の風が強まる」として高浜原発周辺に暴風警報を発令し、最大瞬間風速35メートルと予想していた。

関西電力は「倒壊した原因は調査中」としている。